

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

平成18年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及び裸麦）の子実用作付面積は27万2,100haで、前年産に比べて3,800ha（1％）増加した。

（表2-1、図2-1）

イ 収穫量

平成18年産の4麦の収穫量は101万2,000tで、前年産に比べて4万6,000t（4％）減少した。

また、田畑別の収穫量は、田作が54万6,300tで前年産に比べて2万8,800t（5％）減少し、畑作は46万5,200tで前年産に比べて1万8,000t（4％）減少した。

なお、4麦の主産県における被害率は、小麦20.6％、二条大麦20.2％、六条大麦28.3％、裸麦27.0％となった。（表2-1、図2-1）

図2-1 4麦の作付面積及び収穫量の推移（全国）

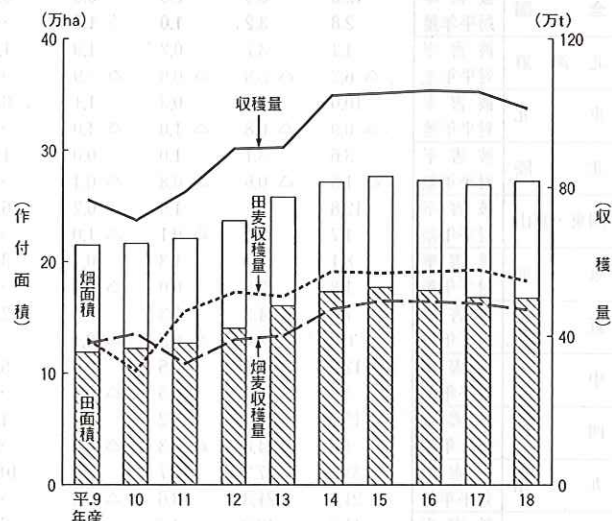


表2-1 平成18年産4麦の収穫量

区 分		作付面積	10 a 当たり 収 穫 量	10 a 当たり 平均収 穫 量 対 比	前 年 産 と の 比 較					被 害 (主産県)		
					作付面積		10 a 当たり 収 穫 量	収 穫 量		被 害 量	被 害 率	
					対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	4 麦 計	百ha	kg	百t	%	百ha	%	%	百t	%	百t	%
	小 麦	2 721	...	10 120	...	38	101	...	△ 460	96	...	...
	二条大麦	2 183	384	8 372	98	48	102	94	△ 375	96	1 747	20.6
	六条大麦	341	347	1 183	95	△ 7	98	97	△ 60	95	247	20.2
	裸 麦	153	278	425	85	△ 2	99	92	△ 45	90	120	28.3
		44	303	134	90	△ 1	97	113	13	111	32	27.0
北 海 道	麦 計	1 229	...	5 231	...	50	104	...	△ 246	96	...	...
	小 麦	1 205	427	5 141	99	50	104	91	△ 260	95	1 111	21.4
	二条大麦	23	385	90	114	0	100	117	14	118	5	6.4
都 府 県	4 麦 計	1 493	...	4 885	...	△ 12	99	...	△ 219	96	...	...
	小 麦	977	331	3 231	97	△ 3	100	97	△ 115	97	638	19.3
	二条大麦	318	344	1 093	93	△ 7	98	96	△ 74	94	242	21.1
	六条大麦	153	278	425	85	△ 2	99	92	△ 45	90	120	28.3
	裸 麦	44	303	134	90	△ 1	97	113	13	111	32	27.0

注：1 この統計表は、子実用である。

2 (参考) 10a当り平均収量対比とは、10a当り平均収量（過去7か年のうち、最高、最低を除いた5か年の平均値）と当年産の10a当り収量との対比である（以下の各統計表について同じ）。

3 主産県とは、麦種別に平成17年産の作付面積が500ha以上の都道府県をいう（以下の統計表について同じ）。

4 被害率は、被害量÷平均収量×100である。

表 2-2 平成18年産 4 麦の収穫量 (全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				裸 麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比	作付面積	10a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比	作付面積	10a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比	作付面積	10a 当たり 収 穫 量	収 穫 量	(参考) 10a 当たり 平均収量 対 比
	百ha	百t	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%	百ha	kg	百t	%
全 国	2721	10120	2183	384	8372	98	341	347	1183	95	153	278	425	85	44	303	134	90
北 海 道	1229	5231	1205	427	5141	99	23	385	90	114	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	1493	4885	977	331	3231	97	318	344	1093	93	153	278	425	85	44	303	134	90
東 北	96	189	82	177	146	78	-	-	-	-	14	309	43	108	-	-	-	-
北 陸	75	207	x	x	x	x	x	x	x	x	74	280	207	95	-	-	-	-
関 東・東 山	440	1511	257	360	926	93	126	344	433	87	56	267	149	69	0	402	2	105
東 海	146	394	142	274	389	90	0	83	0	40	3	186	5	68	0	181	0	78
近 畿	96	258	87	263	229	98	1	306	4	112	6	340	19	101	2	271	5	95
中 国	42	150	13	289	37	94	27	407	109	113	1	126	1	61	1	238	3	91
四 国	44	142	17	319	54	85	x	x	x	x	-	-	-	-	27	320	87	87
九 州	554	2034	378	383	1449	103	163	336	547	95	0	145	0	35	14	277	37	97
沖 縄	0	0	0	140	0	78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注：この統計表は、子実用である。

(2) 解 説

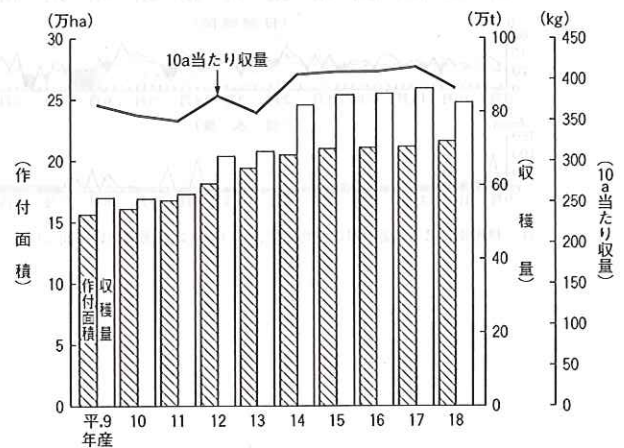
ア 小麦

(ア) 作付面積

小麦の作付面積は21万8,300haで、前年産に比べて4,800ha (2%) 増加した。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は12万500haで、豆類、野菜等からの転換があったことから、前年産に比べて5,000ha (4%) 増加した。都府県は9万7,700haで、九州において二条大麦等からの転換により増加したものの、関東・東山においてそばへの転換等により減少したため前年産並みとなった。(表2-2、図2-2)

図2-2 小麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移 (全国)



(イ) 10 a 当たり収量

全国平均の10 a 当たり収量は384kgで、前年産を26kg (6%) 下回った。

なお、10 a 当たり平均収量対比は98%となった。(表2-2、図2-2)

a 北 海 道

10 a 当たり収量は427kgで、作柄の良かった前年産を41kg (9%) 下回った。

これは、一部地域で、は種後の根雪が早く、雪腐病が発生したことに加え、主産地の十勝地域で6月の低温・日照不足により粒数が確保されなかったことなどによる。

なお、10 a 当たり平均収量対比は99%となった。(表2-2、図2-3)

b 都府県

10a 当たり収量は331kgで、前年産を10kg（3%）下回った。

これは、関東・東山及び東海を中心に、12月から4月にかけて一時期を除き低温・日照不足で推移したため生育が抑制されたことに加えて、5月以降の断続的な降雨等により登熟が抑制されたことによる。

なお、10a 当たり平均収量対比は97%となった。（表2-2、図2-4）

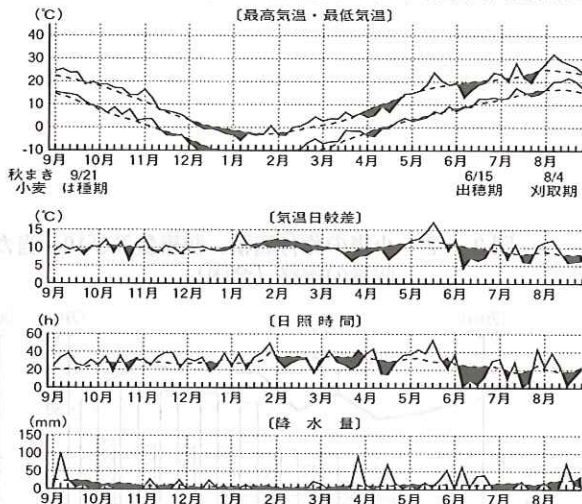
(ウ) 収穫量

収穫量は83万7,200tで、前年産に比べて3万7,500t（4%）減少した。

このうち、北海道の収穫量は51万4,100tで、10a 当たり収量が前年産を下回ったため、前年産に比べて2万6,000t（5%）減少した。

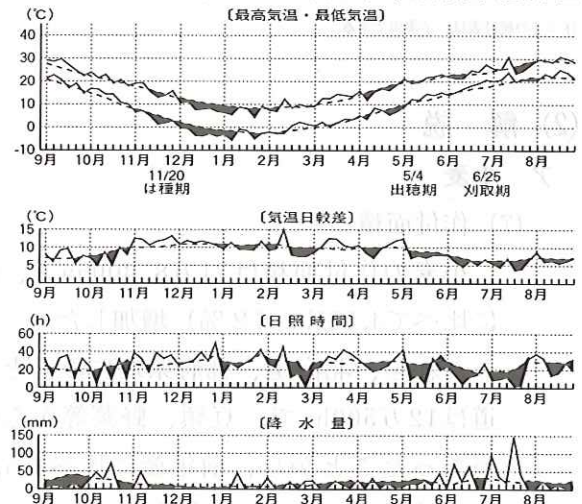
また、都府県の収穫量は32万3,100tで、10a 当たり収量が下回ったため、前年産に比べて1万1,500t（3%）減少した。（表2-2、図2-2）

図2-3 平成18年産麦作期間の半旬別気象経過(帯広)



注：耕種期日は各都道府県の平均値である（以下の各図において同じ）。

図2-4 平成18年産麦作期間の半旬別気象経過(水戸)



イ 二条大麦

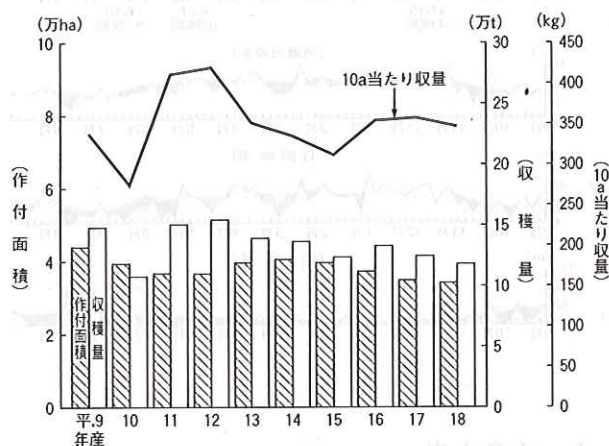
(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万4,100haで、前年産に比べて700ha（2%）減少した。

これを、北海道、都府県別にみると、北海道は2,330haで前年産並みとなった。都府県は3万1,800haで、九州において小麦への転換等により減少したため、前年産に比べて700ha（2%）減少した。

（表2-2、図2-5）

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は347kgで、前年産を10kg（3%）下回った。

これは、都府県で12月から4月にかけて一時期を除き低温・日照不足で推移したため生育が抑制されたことに加えて、5月以降の断続的な降雨等により、登熟が抑制されたことによる。

なお、10a 当たり平均収量対比は95%となった。（表2-2、図2-5、2-6、2-7）

(ロ) 収穫量

収穫量は11万8,300tで、前年産に比べて6,000t（5%）減少した。

このうち、北海道の収穫量は8,980tで、10a 当たり収量が前年産を上回ったため、前年産に比べて1,350t（18%）増加した。

一方、都府県の収穫量は10万9,300tで、作付面積が減少したことに加え、10a 当たり収量が前年産を下回ったため、前年産に比べて7,400t（6%）減少した。（表2-2、図2-5）

図 2-6 平成18年産麦作期間の半旬別気象経過(宇都宮)

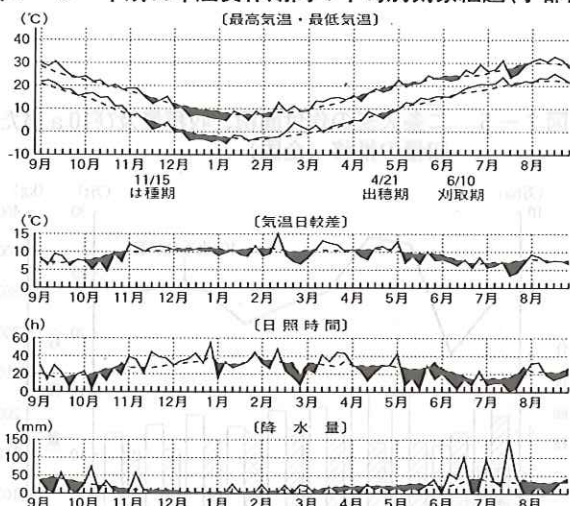
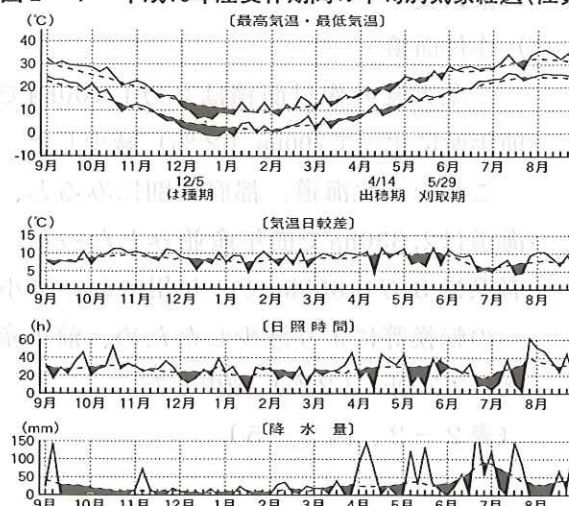


図 2-7 平成18年産麦作期間の半旬別気象経過(佐賀)



ウ 六条大麦

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万5,300haで、前年産に比べて200ha(1%)減少した。

これは、関東・東山において他麦種への転換等により減少したためである。

(表2-2、図2-8)

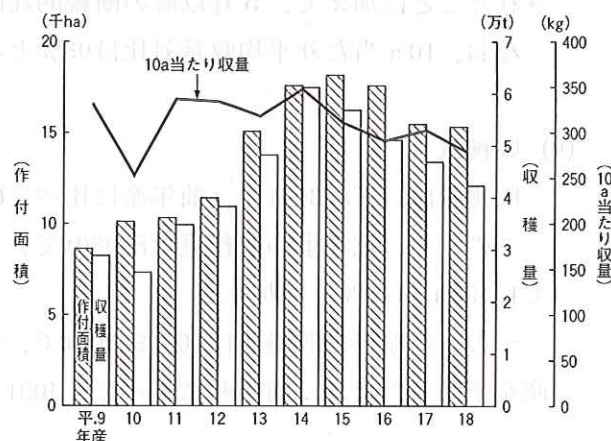
(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は278kgで、前年産を25kg(8%)下回った。

これは、主に関東・東山で、12月から4月にかけて一時期を除き低温・日照不足で推移したため生育が抑制されたことに加えて、5月以降の断続的な降雨等により、登熟が抑制されたことによる。

(表2-2、図2-8、2-9、2-10)

図 2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移(全国)



(ウ) 収穫量

収穫量は4万2,500tで、前年産に比べて4,500t(10%)減少した。

これは、作付面積が減少したことに加え、10a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

(表2-2、図2-8)

図 2-9 平成18年産麦作期間の半月別気象経過(水戸)

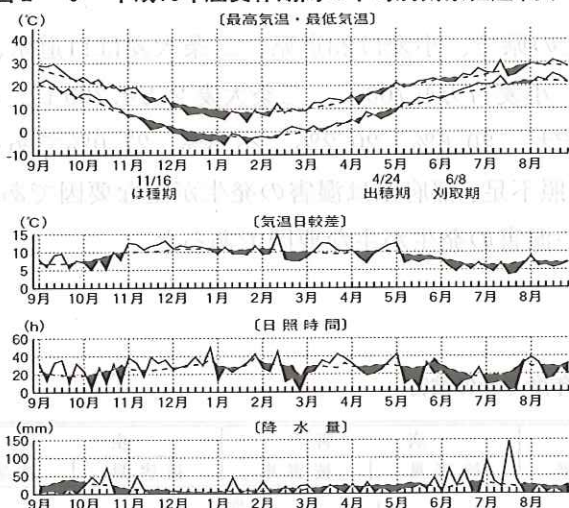
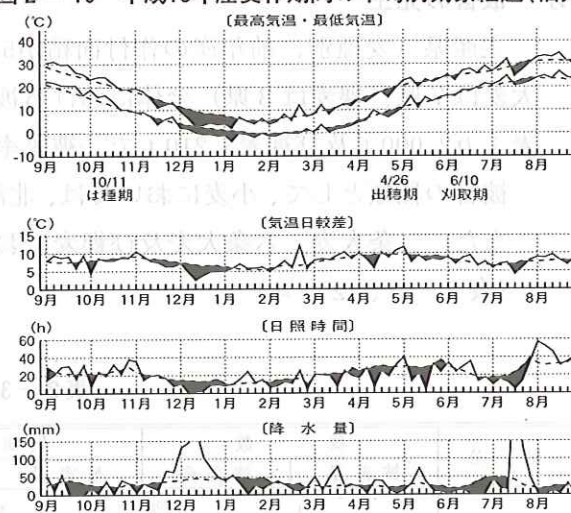


図 2-10 平成18年産麦作期間の半月別気象経過(福井)



エ 裸麦

(ア) 作付面積

裸麦の作付面積は4,420haで、前年産に比べて120ha（3%）減少した。

これは、四国及び九州において小麦への転換等により減少したためである。

（表 2-2、図 2-11）

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は303kgで、作柄が悪かった前年産を36kg（13%）上回った。

これは、主に四国で、は種期の降雨による湿害の発生が多かった前年産に比べて初期生育が順調であったことに加えて、被害の発生が少なかったことによる。

なお、10a 当たり平均収量対比は90%となった。（表 2-2、図 2-11、2-12）

(ウ) 収穫量

収穫量は1万3,400tで、前年産に比べて1,300t（11%）増加した。

これは、作付面積が減少したものの、10a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

（表 2-2、図 2-11、2-12）

図 2-11 裸麦の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移(全国)

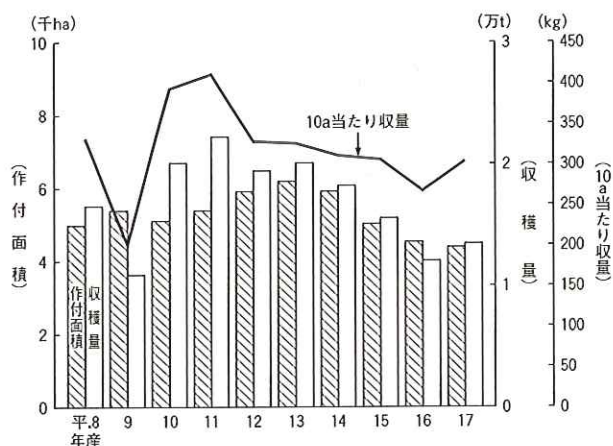
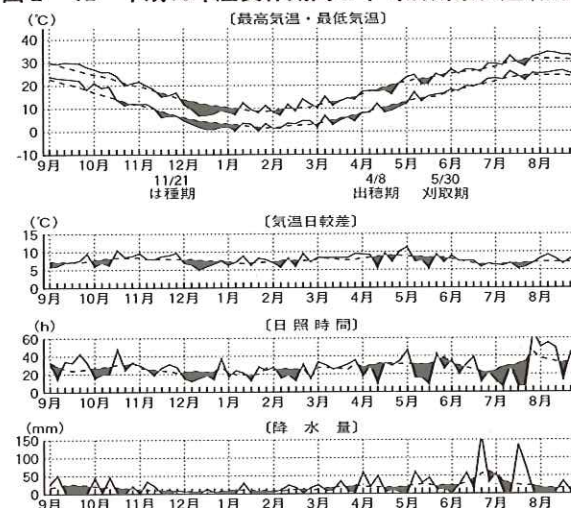


図 2-12 平成18年産麦作期間の半月別気象経過(松山)



オ 被害の発生

主産県（麦種別に前年産の作付面積が500ha以上の県で、小麦は23道県、二条大麦は11道県、六条大麦は7県、裸麦は3県）全体における被害量は、小麦17万4,700 t、二条大麦2万4,700 t、六条大麦1万2,000 t及び裸麦3,210 tで、被害率はそれぞれ、20.6%、20.2%、28.3%、27.0%であった。

被害の種類として、小麦においては、北海道は日照不足、都府県は湿害の発生が主な要因であった。

また、二条大麦、六条大麦及び裸麦においては、湿害の発生が主な要因であった。

（表2-3、2-4）

表2-3 平成18年産4麦の被害

区 分	総 数		気 象 被 害		病 害		虫 害	
	被害量	被害率	被害量	被害率	被害量	被害率	被害量	被害率
	t	%	t	%	t	%	t	%
小 麦								
主 産 県	174 700	20.6	163 200	19.2	9 870	1.2	364	0.0
北 海 道 県	111 100	21.4	107 200	20.6	3 730	0.7	42	0.0
都 府 県	63 800	19.3	56 200	17.0	6 130	1.9	322	0.1
二 条 大 麦								
主 産 県	24 700	20.2	22 400	18.3	2 030	1.7	44	0.0
北 海 道 県	507	6.4	505	6.4	2	0.0	-	-
都 府 県	24 200	21.1	21 900	19.1	2 030	1.8	44	0.0
六 条 大 麦								
主 産 県	12 000	28.3	9 830	23.2	2 060	4.9	24	0.1
北 海 道 県	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	12 000	28.3	9 830	23.2	2 060	4.9	24	0.1
裸 麦								
主 産 県	3 210	27.0	2 910	24.5	232	1.9	6	0.1
北 海 道 県	-	-	-	-	-	-	-	-
都 府 県	3 210	27.0	2 910	24.5	232	1.9	6	0.1

表 2-4 平成18年産 4 麦の被害 (主産県・被害種類別)

被害種類		被害面積	被害量	被害面積率	被害率
		ha	t	%	%
小麦	総気象被害	310 900	174 700	143.9	20.6
	数害	264 200	163 200	122.3	19.2
	雪害	23 700	15 700	11.0	1.8
	風害	24 900	12 300	11.5	1.4
	凍害	3 910	1 540	1.8	0.2
	湿害	61 800	36 400	28.6	4.3
	干害	55 000	16 000	25.5	1.9
	その他	94 900	81 300	43.9	9.6
	病害	34 800	9 870	16.1	1.2
	さび病	4 520	1 640	2.1	0.2
	白濁病	3 750	575	1.7	0.1
	赤かび病	18 100	5 060	8.4	0.6
	その他	8 400	2 590	3.9	0.3
	虫害	3 270	364	1.5	0.0
二条大麦	総気象被害	8 580	1 240	4.0	0.1
	数害	46 800	24 700	125.8	20.2
	雪害	38 500	22 400	103.5	18.3
	風害	92	28	0.2	0.0
	凍害	9 010	5 390	24.2	4.4
	湿害	1 680	667	4.5	0.5
	干害	16 000	11 800	43.0	9.6
	その他	7 140	2 820	19.2	2.3
	病害	4 560	1 660	12.3	1.4
	さび病	6 820	2 030	18.3	1.7
	白濁病	55	8	0.1	0.0
	赤かび病	274	43	0.7	0.0
	その他	3 900	1 430	10.5	1.2
	虫害	2 590	551	7.0	0.4
六条大麦	総気象被害	321	44	0.9	0.0
	数害	1 110	224	3.0	0.2
	雪害	18 300	12 000	139.7	28.3
	風害	15 300	9 830	116.8	23.2
	凍害	756	384	5.8	0.9
	湿害	2 200	2 520	16.8	5.9
	干害	2 470	1 350	18.9	3.2
	その他	5 940	4 170	45.3	9.8
	病害	572	475	4.4	1.1
	さび病	3 360	931	25.6	2.2
	白濁病	2 360	2 060	18.0	4.9
	赤かび病	74	11	0.6	0.0
	その他	60	11	0.5	0.0
	虫害	1 610	1 750	12.3	4.1
裸麦	総気象被害	618	292	4.7	0.7
	数害	100	24	0.8	0.1
	雪害	544	118	4.2	0.3
	風害	6 320	3 210	185.9	27.0
	凍害	4 740	2 910	139.4	24.5
	湿害	-	-	-	-
	干害	1 410	1 000	41.5	8.4
	その他	-	-	-	-
	病害	1 570	1 180	46.2	9.9
	さび病	-	-	-	-
	白濁病	1 760	726	51.8	6.1
	赤かび病	1 080	232	31.8	1.9
	その他	19	2	0.6	0.0
	虫害	39	3	1.1	0.0
麦	総気象被害	805	199	23.7	1.7
	数害	220	28	6.5	0.2
	雪害	52	6	1.5	0.1
	風害	446	57	13.1	0.5
	凍害	-	-	-	-
	湿害	-	-	-	-